

入選

荻野 優 (おぎの ゆう) 南大沢小 6年生

作品名: 自分を変えてくれる仲間

図 書: 夜明けの落語

寿限無寿限無、五劫の擦り切れ…。落語とは、奥が深く実におもしろいものだ。『夜明けの落語』という題から、どんな落語なのだろうと興味を持ったことが、私がこの本を読むきっかけである。このお話は、恥ずかしがり屋で口下手な暁音が、友達と出会い、落語を通じて自分を変えていくお話だ。日直のスピーチの際、同じ日直の三島君が披露した落語に助けられ、落語に興味を持った暁音は、落語を三島君に教わり始める。

暁音は、落語が好きになり上達していく。そして、自分の本当の声で落語をみんなにかたりたいという気持ちが強くなっていく。その一方で、みんなの前で話すのは怖いという気持ちもあり、なかなか勇気が出ない。このことについては、私もわかる。それは、私にも同じような体験があるからだ。

私は暁音と似ていて、人前で話すことが苦手で、いつも緊張してしまっていた。同じクラスの中では、全体を引っばっていきような元気で明るい子もいて、リーダー的存在のあの子みたいに私もなりたいと思っていた。

暁音は、三島君と落語を練習し、次回の日直のスピーチで落語を披露することを決意する。そんな中、親友の初音ちゃんと祭りに行った暁音は、初音ちゃんを落語に誘ってみる。しかし、初音ちゃんは、暁音が三島君と一緒にいること、落語に興味をもっていることは暁音自身はいやで、三島君にやらされているだけと思い込んで、やめることを勧める。自分が本当に落語が好きだった暁音は、このことで、初音ちゃんとケンカになってしなう。初音ちゃんは、三島君とも言い合いになり、暁音は、先生に事情を話す。すると先生は、暁音の、初音ちゃんも三島君も好きだからこそ複雑になってしまう気持ちを理解してくれると共に、暁音に、落語をやるかやらないかを自分で選ぶことが一番大切だと勇気を与えてくれる。仲直りしたいという気持ちがありながらも、仲直りできないまま、ついに寿限無の発表のときが近付いた。話そうとしイスに座った瞬間、再び緊張して、話すのを恐れてしまう。そ

んなとき初音ちゃんが急に教室に入ってきて、暁音が苦労して練習したのだから聞いてあげてと言って背中を押してくれた。勇気が出た暁音は、みんなの前で落語をやりきることができる。そして、初音ちゃん、三島君、暁音の三人の絆はより深く硬いものとなった。

私も暁音と同じく、友だちや先生の支えで自分を変えることができた。学習発表会で役を決めるとき、主役に近い役に立候補したいという気持ちはあったが、自分よりも演技が上手な人がいると思い、立候補に迷いがあった。しかし、担任の先生がダメ元でもチャレンジすることが何よりも大切だと教えてくれ、立候補することを決意できた。また、同じ役に立候補する友達、よきライバルと共にお互いに練習をし合い高め合うこともできた。だからこそ、オーディションは真剣に取り組むことができ、受かることができたと思う。そして一人一人が、自分が主役だと思って自分を出せるようになり、すばらしい舞台を築きあげることができた。そしてクラスの仲間とても深いものとなった。

私がこの本を読んで学んだことは、仲間がいれば、どんなことにもチャレンジできるという、仲間のすばらしさ、力強さだ。この本で暁音が変わることができたのも、三島君や初音ちゃん、先生からの言葉、思いがあったからだと思う。私も今後、仲間との関係をより深めることで自分を高め、豊かにしていきたい。